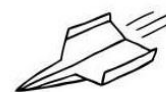




よく飛ぶ紙飛行機をつくろう

～高校入学式の挨拶より～



子どもたちの暗い顔と明るい顔の差はどこから生まれてくるのでしょうか。この差はどんなところにあるのでしょうか。それは、やらされているか、自らやっているかの差だと思います。

子どもたちが目的意識をもって、やってやるぞという気持ちで行動していれば、明るい顔で「行きます！」と出かけ、学校で友だちや先生と関わる中で、必ず「自分で選んだ道を正解にする力」が身についていきます。

私たちは、これからの学校生活でしっかり子どもたちを守っていきます。しかし、守るだけでは、子どもの足を引っ張る大人になると思います。子どもたちは、**守られている間に守る力**をつけなくてはならないのです。守ってもらうばかりでなく、守る側に回る経験もしてほしいと思っています。

そこで、「よく飛ぶ紙飛行機をつくろう」という授業を自分が受けているつもりになって、授業中の自分を想像してみてください。もちろん先生が折り方を教えるものではありません。

これから子どもたちに求められる力がこの授業にはあります。つまり、チャレンジしていくマインドです。話し合ったり、試したり、どうしたらうまくいくかということに向かっていく力……。

この力をもつ人になるには……。

「とばしてやるぞ」という、ほどほどでなく、熱意を！

「こうやってみよう」という、指示待ちでなく、主体性を！

「あーでもない、こうでもない」という、答えを急ぐのではなく、自分で、自分たちで考える力を！

「これはどうだろう、なるほどそうか」という、おしゃべりでなく、人の意見を聴く・話す力を！

「もう一回、もう一回」という、効率的でなく、耐える力を！

これは、昨年度の「Sense of Mission」7月号に書いた「非認知能力の育成」につながる話です。『非認知能力』をわかりやすく表現すると、「自分を律する力」「やり抜く力」「助けてもらう力」「教わる力」「聴く力」「リスペクトする力」「共感する力」「忍耐強さ」などがあり、社会で生きていくための『生きる力』の素地になります。これらは成果がすぐに表れない力であり、また、その力は数値化できません。だから「非認知能力」と言います。この力をつけていくためには、「これからも頑張ろう」「次はこうしよう」といった**前向き行動力**が大切です。チームのメンバーがお互い認め合うこと、そして、現状の良さを生かしながら、今後につなげることをチームで理解し合うことが重要です。

(学校長 重枝 一郎)

これまでの「Sense of Mission」の校長巻頭言は学校HP「学校長メッセージ」で見ることができます。どうぞご覧ください！

